

# 兵庫県における性感染症対策について

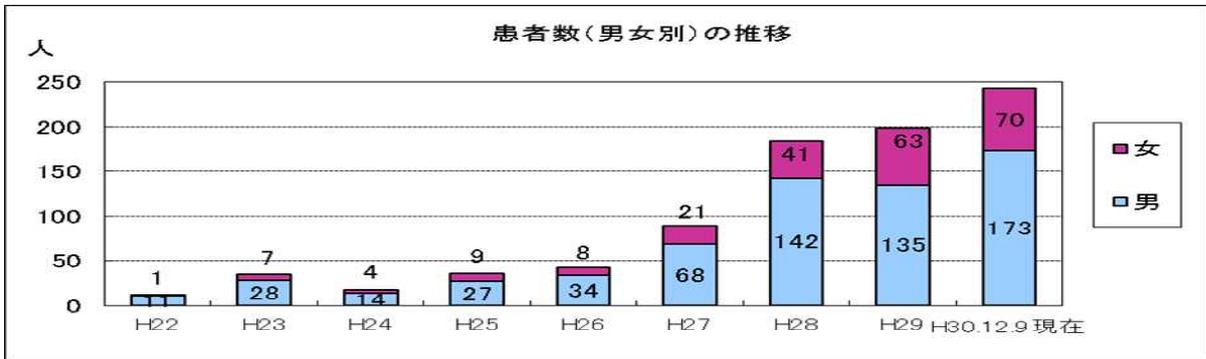
## I 梅毒の届出状況(※平成 30 年については、第 49 週(12/9)までの暫定値)

### 1 患者数(性別)の推移

年	男(人) [%]	女(人) [%]	合計(人)
平成 23	28 [80.0]	7 [20.0]	35
平成 24	14 [77.8]	4 [22.2]	18
平成 25	27 [75.0]	9 [25.0]	36
平成 26	34 [81.0]	8 [19.0]	42
平成 27	68 [76.4]	21 [23.6]	89
平成 28	142 [77.6]	41 [22.4]	183
平成 29	135 [68.2]	63 [31.8]	198
平成 30	173 [71.2]	70 [28.8]	243

○年別患者数の推移は、平成 23 年に 35 人(前年 12 人)と急増し、平成 24 年は 18 人と減少したが、その後増加を続けている。平成 27 年以降は、前年の 2 倍以上の届出が続いている。平成 30 年 12 月 9 現在の暫定報告数は 243 人と前年を 50 人上回るペースである。

○患者の性別は男性が多数を占めているものの、平成 29 年は女性の割合が増加している。

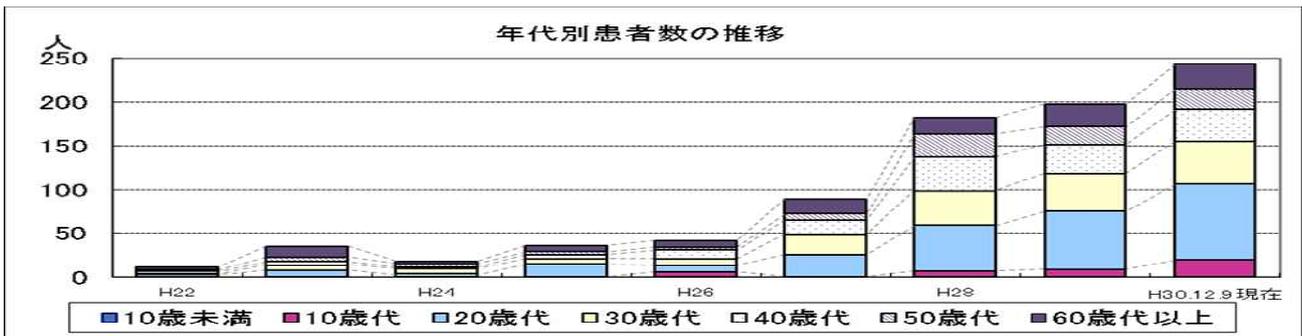


### 2 年代別患者数の推移

年	10歳未満(人)	10歳代(人)	20歳代(人)	30歳代(人)	40歳代(人)	50歳代(人)	60歳代以上(人)
平成 23			8	6	4	5	12
平成 24		1	3	6	2	3	3
平成 25		1	14	6	5	3	7
平成 26	1	5	8	7	10	3	8
平成 27		1	25	23	16	7	17
平成 28	1	6	52	40	39	26	19
平成 29	0	9	65	45	32	21	26
平成 30	0	20	87	49	36	23	28
(うち男)		(8)	(57)	(33)	(33)	(20)	(22)
(うち女)		(12)	(30)	(16)	(3)	(3)	(6)

○平成 29 年の年代別患者数は、20~40 歳代で、全体の 2/3 を占めている。

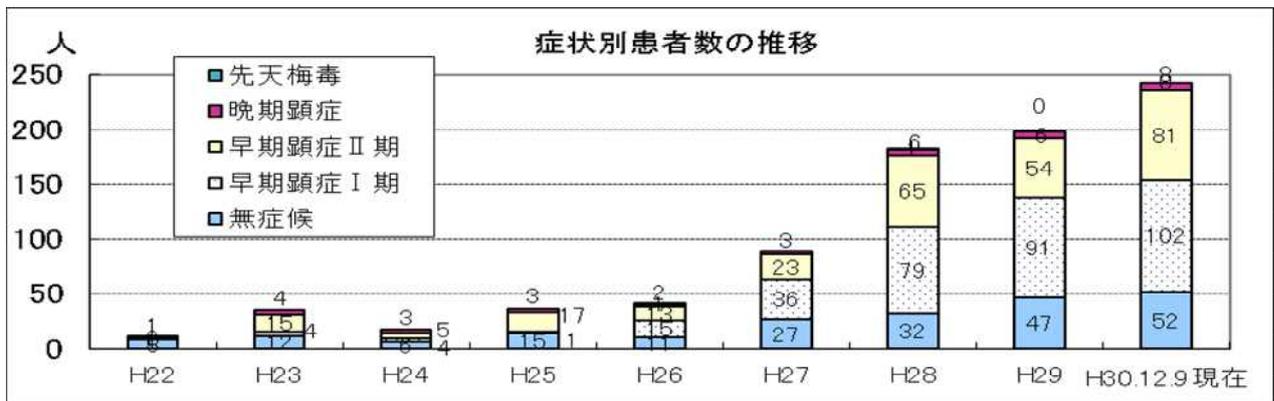
○10 歳代での届出も 20 件と増加傾向にあり特に女性の割合が高くなっている。



### 3 症状別患者数の推移

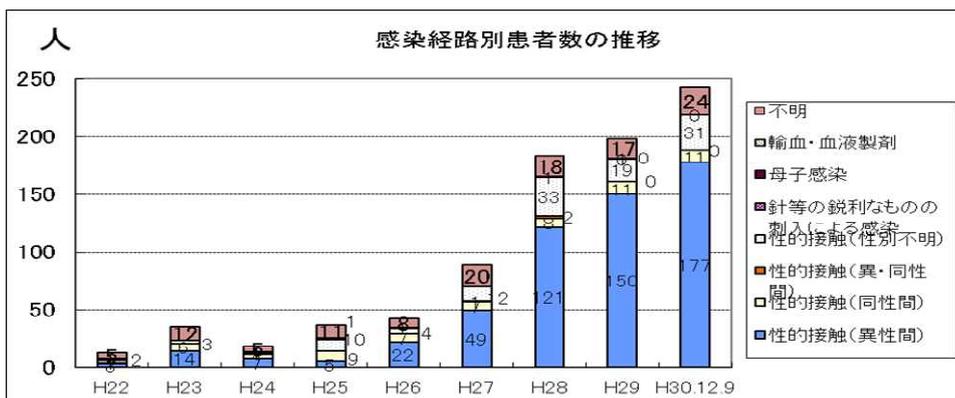
年	無症候 (人) [%]	早期顕症Ⅰ期 (人) [%]	早期顕症Ⅱ期 (人) [%]	晩期顕症 (人) [%]	先天梅毒 (人) [%]
平成 23	12 [34.3]	4 [11.5]	15 [42.9]	4 [11.5]	0 [0.0]
平成 24	6 [33.4]	4 [22.3]	5 [27.8]	3 [16.7]	0 [0.0]
平成 25	15 [41.7]	1 [2.8]	17 [47.3]	3 [8.4]	0 [0.0]
平成 26	11 [26.2]	15 [35.8]	13 [31.0]	2 [4.8]	1 [2.4]
平成 27	27 [30.3]	36 [40.4]	23 [25.8]	3 [3.4]	0 [0.0]
平成 28	29 [18.2]	72 [45.0]	52 [32.5]	6 [3.8]	1 [0.7]
平成 29	48 [24.2]	90 [45.5]	54 [27.3]	6 [3.0]	0 [0.0]
平成 30	52 [21.4]	102 [42.0]	81 [33.3]	8 [3.3]	0 [0.0]

○症状別患者数は、  
早期顕症Ⅰ期が  
最も多く、症状が  
出現してからの  
届出が多い。



### 4 感染経路別患者数の推移

年	性的接触 (異性間) (人) [%]	性的接触 (同性間) (人) [%]	性的接触 (異・同性 間) (人) [%]	性的接触 (性別不明) (人) [%]	輸血 (人) [%]	針等の鋭 利なもの の刺入に よる感染 (人) [%]	母子感染 (人) [%]	不明 (人) [%]
平成 23	14 [40.0]	6 [17.2]	0 [0.0]	3 [8.6]	0 [0.0]	0 [0.0]	0 [0.0]	12 [34.3]
平成 24	7 [38.9]	4 [22.3]	0 [0.0]	1 [5.6]	0 [0.0]	0 [0.0]	1 [5.6]	5 [27.8]
平成 25	5 [13.9]	9 [25.0]	0 [0.0]	10 [27.8]	0 [0.0]	1 [2.8]	0 [0.0]	11 [30.6]
平成 26	22 [52.4]	7 [16.7]	0 [0.0]	4 [9.5]	0 [0.0]	0 [0.0]	1 [2.4]	8 [19.0]
平成 27	49 [55.1]	7 [7.9]	1 [1.1]	12 [13.5]	0 [0.0]	0 [0.0]	0 [0.0]	20 [22.5]
平成 28	108 [67.5]	5 [3.2]	1 [0.7]	29 [18.2]	0 [0.0]	0 [0.0]	1 [0.7]	16 [10.0]
平成 29	150 [75.8]	11 [5.6]	0 [0.0]	19 [9.6]	1 [0.5]	0 [0.0]	0 [0.0]	17 [8.6]
平成 30	177 [72.8]	11 [4.5]	0 [0.0]	31 [12.8]	0 [0.0]	0 [0.0]	0 [0.0]	24 [9.9]



○感染経路は、異性間  
性的接触による感染  
割合が高い。

## Ⅱ 平成 30 年度 性感染症対策事業について

エイズ対策と合わせ、地域の実情に応じて普及啓発等を実施するとともに、梅毒について無料匿名検査を実施。

### 1 普及啓発の実施

(1) ホームページによる啓発

梅毒患者の増加に関してホームページにて注意喚起。

合わせて、医療従事者あてに梅毒診断時の HIV 検査の実施について考慮を依頼。

(2) 啓発資材の作成

「知っていますか？梅毒という性感染症のこと」を作成、健康福祉事務所における普及啓発に活用。

### 2 梅毒検査の実施状況

県下 12 健康福祉事務所において、無料匿名検査を実施（毎月 2 回・即日検査）。

年度	26	27	28	29	30(4~9月)
検査件数	712	621	682	658	312

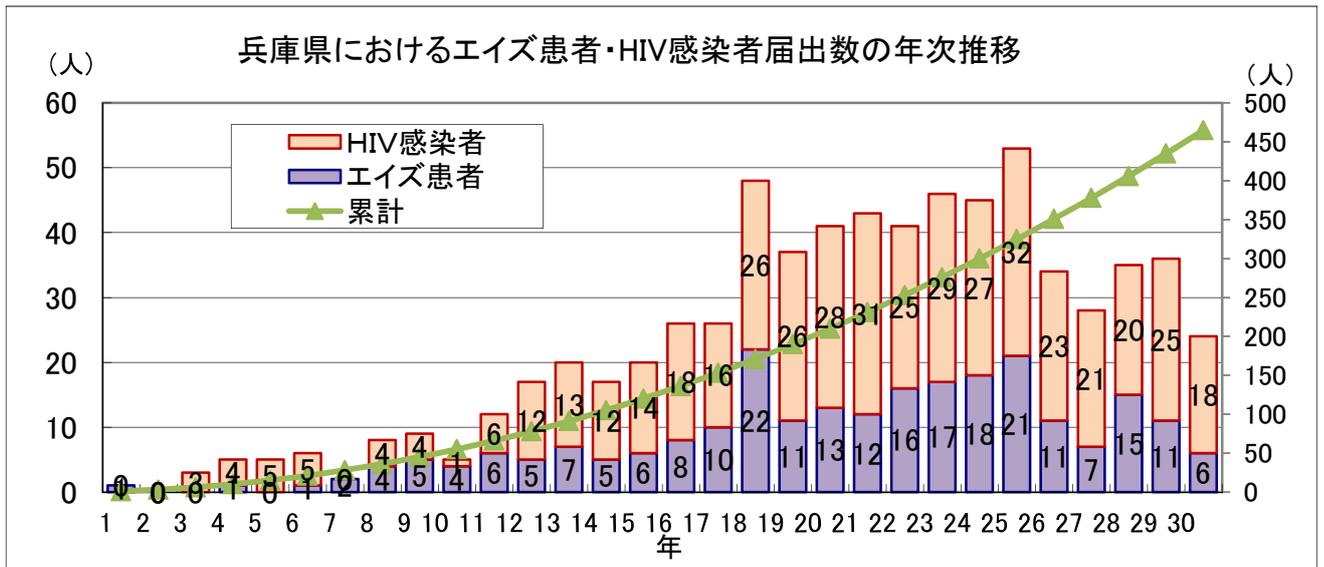
# 兵庫県におけるエイズ対策について

## I HIV感染症・AIDS患者の届出状況

### 1 平成30年報告数(第49週:平成30年12月9日現在)

届出期間 平成30年1月1日から平成30年12月9日まで  
 新規HIV感染者 18人  
 新規AIDS患者 6人  
 合計 24人

【参考】平成29年同時期届出状況：36人  
 いきなりエイズ率：25.0%



## 2 届出内訳

### (1) HIV感染者

- 性別 男：16件(88.9%)、女：2件(11.1%)
- 年代別 20代：3件(16.7%)、30代：6件(33.3%)、40代：3件(16.7%)、50代：1件(5.6%)、60代以上：5件(27.8%)
- 感染経路 同性間の性的接触：8件(44.4%)、異性間性的接触：5件(27.8%)、その他(入れ墨)：1件(5.6%)、不明4件(22.2%)

### (2) AIDS患者

- 性別 男6件(100.0%)
- 年代別 20歳未満：1件(16.7%)、30代：2件(33.3%)、40代：1件(16.7%)、50代：1件(16.7%)、60代：1件(16.7%)
- 感染経路 同性間の性的接触：3件(50.0%)、異性間性的接触：2件(33.3%)、静注薬物使用：1件(16.7%)

## II エイズ対策事業について

### 1 正しい知識の普及啓発

#### (1) 「エイズ予防月間」の実施

6月を「エイズ予防月間」と定め各健康福祉事務所で重点的な啓発を実施。

#### (2) 「世界エイズデー」における啓発活動の展開

#### (3) 個別施策層への取り組み

## 2 医療体制の充実

- (1) 中核拠点病院を中心とした連携体制の充実

【中核拠点病院1 拠点病院10 診療協力病院36】

①拠点病院連絡会議

②エイズ診療従事者研修会

兵庫医科大学病院（エイズ中核拠点病院）に委託し、拠点病院、一般医療機関、福祉機関を対象に研修会を実施し、医療体制の充実及び療養支援体制の整備を図る。

- (2) エイズカウンセラー派遣事業  
(3) 感染症患者在宅療養支援者養成事業  
(4) 歯科診療連携の検討

## 3 検査体制の充実

- (1) 健康福祉事務所・保健所における即日検査の実施

- (2) エイズ予防月間、世界エイズデーにおける夜間、休日、臨時検査

【参考】検査件数

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (4月～9月)
県健康福祉事務所	921	839	719	316
神戸市保健所	2,804	2,775	2,900	1,227
姫路市保健所	273	230	242	117
尼崎市保健所	357	371	434	233
西宮市保健所	163	167	169	91
あかし保健所	-	-	-	88
計	4,518	4,382	4,464	2,072

## 4 相談・指導體制の充実

- (1) 健康福祉事務所・保健所における電話、面接相談 平日の時間内

- (2) エイズ専用電話相談（県民総合相談の一環） 月1回、13：00～17：00

- (3) 外国人エイズ電話相談の実施

【参考】相談件数

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度 (4月～9月)
専用電話相談	2	6	0	1
県健康福祉事務所	218	163	98	132
神戸市保健所	143	157	101	47
姫路市保健所	116	109	68	22
尼崎市保健所	540	514	604	302
西宮市保健所	18	16	18	7
あかし保健所	-	-	-	25
計	1,037	965	889	536

**長期目標：HIV/AIDSの新規報告数を減少させる**  
 そのための方策 ①効果的な普及啓発の推進による新たな感染の予防  
 ②感染者の早期発見と早期治療による感染拡大の防止

**重点取り組み項目（平成30年度～平成32年度）**

「潜在感染者の早期発見及び治療へ繋げるための関係機関の連携強化」

- 保健所が実施する HIV 抗体検査の受診促進
- 医療機関におけるハイリスク者への積極的な HIV 検査実施の促進
- HIV 陽性判明時の感染者の支援  
（カウンセラー派遣制度の活用、NGOs による支援制度との連携）
- 拠点病院との連携

目標値：HIV/AIDS 新規報告数の平成 29 年比 30%増加を目指す



(参考)

**HIV 検査サービスに関する WHO・UNAIDS 声明：新たな機会と継続的な課題**

WHO と UNAIDS が 2017 年 8 月 28 日、HIV 検査に関する共同声明を発表しました。

「公衆衛生上の脅威としてのエイズ流行」を集結に導くための大前提として、国際社会は現在、90-90-90 ターゲットを 2020 年までに実現することを共通目標としています。

HIV 陽性者の 90%が自らの感染を知り、そのうちの 90%が抗レトロウイルス治療を受け、さらに治療を受けている人の 90%が体内のウイルス量をきわめて低く抑える状態を実現するという目標です。

